

…ごみかんよりお知らせ…



東京都日野市が「レジごみ袋」販売の実証実験を始めました。市内にあるイオンスタイル多摩平の森とセブンイレブンで、写真のようなごみ袋に見えないオシャレなデザインの袋が9月から販売されているそうです。

ということかという、「レジごみ袋」はマイバッグを忘れた時やマイバッグに入りきらない買い物をした時などに、レジ袋代わりに使える、新たな市の指定収集ごみ袋なのです。

レジ袋を断り、指定収集袋として活用できる「レジごみ袋」を購入することで、プラスチック袋が2枚（レジ袋、指定収集袋）から1枚（レジごみ袋）に半減し、環境負荷が軽減します（日野市）とのこと。

明星大学デザイン学部の学生のレジごみ袋のデザイン及び販売促進の提案により、産官学の連携で実現したそうです。確かに、マイバッグを忘れた時にレジ袋を購入するより、ばら売りの「レジごみ袋」を購入するほうがムダにはなりません。10ℓ袋サイズ

のみ、1枚20円（ごみ袋と同額、ばら売り）。

日野市は長年、マイバッグ運動とレジ袋有料化を推進してきた経緯があり、有料化後のレジ袋辞退率は85.6%だそうです。この実証実験により、さらに辞退率が増えていくといいですね。

家庭系の有料指定ごみ袋は、現在、多摩地域30自治体では松原村と武蔵村山市以外で採用され、10月からは武蔵村山市でも実施されるので、もうほとんどの自治体でレジ袋はごみ出しには使えません。そして指定ごみ袋も、ごみ出しに1回使うだけでももったいない。知恵を絞って指定ごみ袋に何らかの付加価値が付けられるといいですね。

そういえば、多摩市の可燃ごみ袋には、大きく「無事です」と印字されています。災害の際、短時間で安否確認ができるように、外から見るとところにごみ袋を掲示することになっているのですが、これなどかなり珍しい例ですね。有料指定ごみ袋、なかなか奥が深い！



研究者は食品廃棄削減に向けて何をしている？

食品廃棄をいかに把握し、削減につなげるか

渡辺浩平さん（帝京大学文学部社会学科 教授）

11月19日（土） 13:30～16:00

小金井市市民会館 《萌え木ホール》
JR 武蔵小金井駅南口より徒歩5分
小金井市商工会館 3F

*参加費（資料代）：一般1,000円
学生/会員500円

*申し込み不要。直接会場へ

久しぶりのリアル開催
ぜひ会場へ！
詳細は同封のチラシを
ご覧ください



講師プロフィール

京都大学工学部衛生工学科卒業後、同大学大学院文学研究科にて地理学を学ぶ。

その後、ケンブリッジ大学に留学。地球科学部地理学大学院にて学び、修士、博士の学位を取得。拠点とする国や学部学科を移動しつつも、大学時代から現在に至るまで一貫してごみの研究を続けている。

食品廃棄についてはEUのフォーラムや、国連環境計画（UNEP）のワーキンググループのメンバーでもある。小平市、小金井市の廃棄物減量等推進審議会委員。

*このごみ袋記

以前、ごみつとでも取り上げましたが、私が暮らす小金井市では市内の小中学校で、給食残渣用の生ごみ処理機に市民が生ごみを持ってきて投入すること、少しでも可燃ごみ削減に貢献しようという「土曜生ごみ回収活動」が行われています。毎週土曜日、ボランティアの市民が当番制で二人立ち会います。回収する時間は一時間ですが、準備や片づけでおおよそ一時間半。私も去年の夏から参加し、一年が経ちました。毎週おおよそ二十五人くらいの市民がやってきます。当番は二人ですが、生ごみ投入を済ませた後、おしゃべりに花が咲くので、いつも四、五人集まっています。死語になりそうに「井戸端会議」という言葉がここでは生きています。気候の話から、近所のお店の情報、政治への怒り、お決まりの怪我・病気の話…。雨でも雪でも回収はやってるので、台風の日にも二十人の方がみえました。課題はご他聞にもれず、若い世代の参加を増やすこと。そして問題は市の対応です。市の可燃ごみ削減の呼びかけに、行政がやる気ない、ボランティアを尊重しない…。と、長年ボランティアをつとめてくれた方たちは嘆き、夏になる前に複数人辞めてしまいました。とてもいい空気感のある活動現場なのに、行政の責任は重いと思います。

ごみ・環境ビジョン21



年会費＝個人会員 3,000円 団体会員 6,000円
賛助会員 10,000円（一口）

郵便振替 口座名：ごみ・環境ビジョン21
口座番号：00130-1-603521

◆ごみつと・SUNのお受け取り方法は

- ①ヤマト運輸のDM便
 - ②メール添付でのPDF配信 の二つがあります。
- ②をご希望の方はメールにてお申し込みください。

◆振替用紙にはご住所・お名前・お電話番号（FAX）をご記入ください。また、住所変更があった場合はお知らせください。DM便は移転先へ転送されませんので戻ってきてしまいます。

◆記事を転載する場合はご連絡ください。